

人吉市景観形成地域の色彩ガイドライン

2-5-1 人吉市景観形成地域の範囲

人吉市景観形成地域は、下図に示した球磨川を中心とした人吉市中心部の地域です。地域は、景観特性などから、さらに3つのゾーンに分けられます。

- 1—商店街ゾーン
- 2—球磨川河畔ゾーン
- 3—人吉城跡・永国寺ゾーン

2-5-2 景観づくりの基本的考え方

人吉市景観形成地域は、球磨川や緑の丘陵地等身近で豊かな水と緑に恵まれています。また、相良家700年の歴史に培われた人吉城や



写真 人吉城跡から見た人吉市街



写真 人吉城多門櫓

その城下町のたたずまいは人吉市を代表する景観として、地域の人々に愛され、同時に観光地としても広く知られています。

さらに近年においては九州縦貫自動車道の開通などにより、県南部を代表する観光都市としての更なる発展が期待されています。

人吉市景観形成地域においては、球磨川や丘陵の緑地などの自然を背景に城下町として発展してきた歴史及び文化環境を守りながら、県南の代表都市として、「物語都市ひとよし」にふさわしい新しい都市イメージが醸成されるよう、次の基本的考え方に沿った景観形成を進めます。

- 1—人吉の伝統・文化の息づく街と集落それぞれの生活風景を大切にしたい景観づくり
- 2—人吉の風土に培われた水と緑をいかした自然に彩られたふるさとを感じさせる景観づくり
- 3—人吉を訪れた人々を心地良く、分かりやすく迎える景観づくり

● 区域

商店街ゾーン

国道445号の区間のうち、県道人吉駅停車場線との交点から市道球磨川沿岸第1号線との交点までの区間の道路の路端から両側20m以内の区域

球磨川河畔ゾーン

球磨川流域のうち、人吉橋から球磨川第3橋梁までの区間の河川の境界から両側20m以内の区域並びに上青井町、九日町及び五日町の各一部

人吉城跡・永国寺ゾーン

土手町、灰久保町、西間下町、老神町、新町、灘町及び寺町の各一部

商店街ゾーン

球磨川河畔ゾーン

人吉城跡・永国寺ゾーン

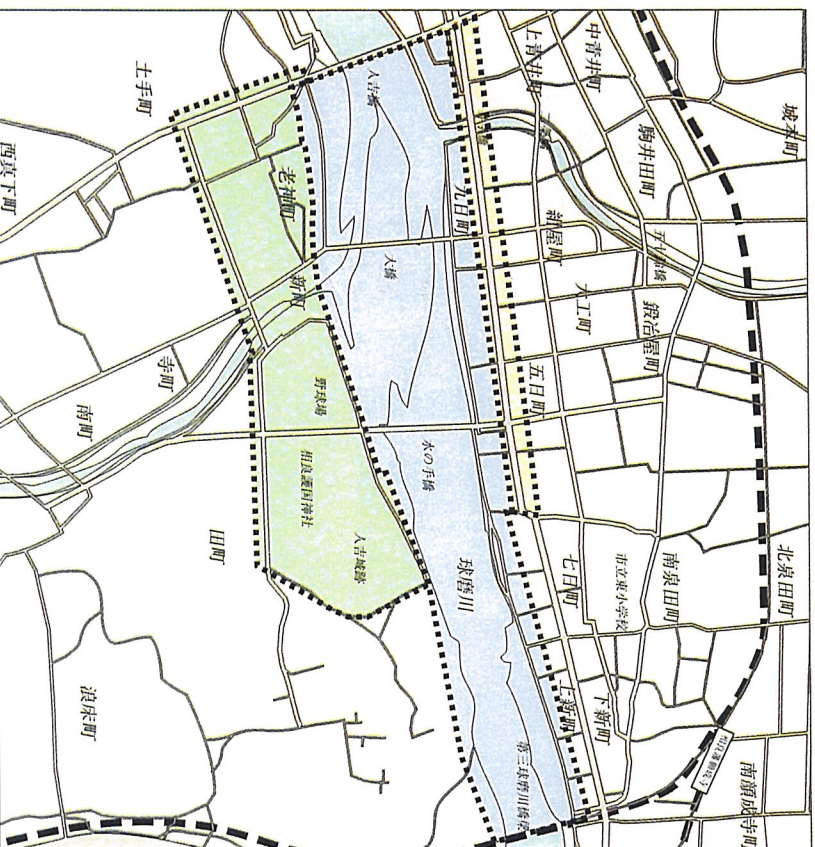


図 人吉市景観形成地域の範囲とゾーン区分

2-5-3 人吉市景観形成地域の景観形成基準

■表 人吉市景観形成地域の景観形成基準(建築物等の色彩に関するもの)

	商店街ゾーン	人吉城跡・永国寺ゾーン
建築物 外觀 色彩	外壁及び屋根は、けばけばしいものは避け、周辺の景観と調和したものを採用するものとする。	外壁及び屋根は、隣接した建築物や周辺の景観と調和した落ちついたもので、明度及び彩度ともにできる限り低いものを採用するものとする。

外壁は、白もしくは灰色又は茶系統の落ちついたものを用いるものとする。

2-5-4 人吉市景観形成地域の色彩景観の現況

中高層部にアウセントのある色彩景観

商店街ゾーンの建物は看板や屋上広告を設置するなど中・高層部にアウセントをおいた配色になっていきます。

一方、歩行者の目にとまりやすい、低層部には派手な色彩のぼりや自動販売機などが無秩序に並び、季節感や商店街としてのオリジナリティを感じさせる要素に乏しいのが実状です。



■写真 建物の中高層部に設置された広告物

色彩に共通性のない中高層建築物

人吉城跡・永国寺ゾーンの中高層の建築物は明るい白や鮮やかなレンガ色など、背景となる山並みと対比的な色彩のものが多く、隣り合う建物の色彩に共通性が感じられません。

2-5-5 人吉市景観形成地域の色彩景観づくりの目標

遠景と中・近景を使い分けた色彩選択

遠景からよく見える規模の大きい建築物は、背景の山並みと対比の少ない灰色や彩度を抑えた茶色などを基調とし、周囲をとりまく自然との調和を図ります。

鮮やかな屋根を多用した低層建築物
永国寺ゾーンには住宅をはじめ、多くの低層建築物が軒を連ねています。これらの外壁には、まちなみとしての共通性が感じられますが、屋根の色彩はまちなみで、建築物の色としての色彩調和が感じられません。

また、低層の建築物は近景・中景を意識し、隣り合う建物と色相やトーンをあわせたり、材質感の豊かな建材を用いるなど、色彩に対する配慮を感じさせながら、退屈さのない色彩デザインを行います。

全体としては、遠くから見たときに落ちつきを、近くに寄ったときに飽きのこないきめの細かさを感じさせる色彩景観を目指します。

■表 外壁基調色の色彩ガイドライン

ゾーン	選べた方がよいトーン(●)
商店街ゾーン	鮮明色
球磨川河畔ゾーン 人吉城跡・永国寺ゾーン	明清色 暗清色 鮮明色

■表 外壁基調色の色彩ガイドライン

推薦トーン(○)
明灰色・中灰色 明緑色・中緑色

※1ー表面に着色を施していない木材や土壁、金属板、スレート、ガラスなどの素材色は、この色彩ガイドラインの適用を除外します。
※2ー各ゾーンの色彩の範囲は、19ページの一覧表を参照してください。

2-5-6 人吉市景観形成地域にふさわしい色彩(商店街ゾーン)

アーケードの上には落ちついた明穏色・中穏色
 徒歩による近隣消費が中心となる商店街ゾーン
 では、遠くからよく目立つような鮮やかな色彩
 は必要ありません。

従っておおむねアーケードから上の部分の色彩
 は明穏色や中穏色などに抑え、落ちつきのある
 日常的な風景をつくりましょう。

アーケードの下にはにぎわいを演出する色彩

通りを通る人の目によくふれる低層部、おおむ
 ねアーケードから下の空間は、商店街の活気や
 にぎわいが伝わるよう、商店主が話し合うなどし
 て定めた商店街としてのオリジナリティを感じ
 させる色彩を効果的に用いるようにしましょう。

■商店街ゾーンの推薦配色

N-30(N3.0)			
	N-85(N8.5)	N-80(N8.0)	N-95(N9.5)
N-85(N8.5)			
	19-65C(1.0YR8.5/1.5)	22-85F(2.5YR8.5/3)	35-85B(5GY8.5/1)
ゾーン内の飲食店			
	05-60B(5R6/1)	09-70D(1.0R7/2)	15-70D(5YR7/2)
	05-80B(5R6/1)	(1.0R8/1)	15-80B(5YR8/1)
	19-90C(1.0YR8/1.5)	22-80B(2.5YR/1)	25-80B(6Y8/1)
	05-60B(5R6/1)	09-70D(1.0R7/2)	15-70D(5YR7/2)
	17-60D(7.5YR6/2)	19-60F(1.0YR6/3)	22-60D(2.5Y6/2)

■商店街ゾーンの現状

●明灰色	N-85(N8.5)	N-80(N8.0)	N-95(N9.5)
●白			N-90(N9.0)
●明穏色	05-80B(5R6/1)	(1.0R8/1)	15-80B(5YR8/1)
●中穏色	05-60B(5R6/1)	09-70D(1.0R7/2)	15-70D(5YR7/2)
	19-90C(1.0YR8/1.5)	22-80B(2.5YR/1)	25-80B(6Y8/1)
	17-60D(7.5YR6/2)	19-60F(1.0YR6/3)	22-60D(2.5Y6/2)

■写真 商店街ゾーンの現状



通り沿いの低層部にアクセントをもちたせた例

■写真 景観色彩シミュレーション



中高層部に設けられた屋上広告や看板などのアクセント色

●左一通りに面した低層部はさまざまな色彩のタイトルなどにぎわいを演出し、通りに面していない妻側は無彩色の鎮静的な色使いでまとめています。

●右一商店街ゾーンの現状の色彩景観はどちらかという中高層部にアクセントをもちたせた配色になっています。派手な看板などは避け、低層部ににぎわいをもたせるようにしましょう。

アーケードから上の色彩はトーンをそろえるなどして調和感のあるまちなみをつくります。

また、アーケード自体の色彩は彩度を抑え、商店街による季節感の演出など、さまざまな色彩要素の変化に対応できるようにします。



商店街ゾーンの景観と対比的な例



外壁色のトーンをそろえ、アーケード側面の彩度を下げた例

2-5-7 人吉市景観形成地域にふさわしい色彩(球磨川河畔ゾーン、人吉城跡・永国寺ゾーン)

球磨川河畔の大規模建築物は明穏色や中穏色で落ち着いた色

人吉城跡から球磨川越しに見える河畔の旅館など、規模の大きい建築物は、明るさを抑えた色彩を基調とし、背景の山並みに調和する穏やかな色彩景観をつくりましょう。

中小規模の建築物には暗めの屋根を組み合わせよう

人吉の市街地を形成する中小規模の建築物は、現状多く用いられている白や明穏色などの外壁を踏襲しながら、暗灰色や暗穏色など、鮮やかさを抑えた機能的な色彩の屋根を組み合わせ、落ちつきのある市街地景観をつくりましょう。

■ 球磨川河畔ゾーン、人吉城跡・永国寺ゾーンの推薦配色

球磨川河畔ゾーンの旅館			人吉城跡・永国寺ゾーンの住宅	

規模の大きい球磨川河畔の旅館などは、鮮やかさを抑えた灰色や茶色を基調とし、暗灰色などの勾配屋根つけます。一般の住宅や商店などは、白や明るいパーフェクトなどを基調とし、腰壁をつけるなど、細かな意匠に配慮します。

■ 大規模建築物の推薦色

■ 中小規模の建築物の推薦色

■ 写真 球磨川河畔ゾーン、人吉城跡・永国寺ゾーンにふさわしい色彩の建物

●左—低層の建物は周辺の建物や自然物と色彩の共通性をもたせ、近くによっても単調さを感じさせないきめの細かい色彩選択を行います。
●右—板端に明るい色彩や鮮やかな色彩を避け、勾配屋根をとりつけるなどによって周辺から突出することを避けています。



写真 質感豊かな外装材を使用した例



写真 基調色の彩度を抑え、傾斜屋根をつけるなどの工夫がみられる例

■ 写真 景観色彩シミュレーション



写真 球磨川河畔ゾーン、人吉城跡・永国寺ゾーンの景観と対比的な例



写真 屋根色を暗灰色でそろえた例

着色技術の向上によって、屋根の色彩にもさまざまな選択肢が得られるようになり、近年では、古くから利用されてきた灰色や黒、焦げ茶色などが再評価され、出荷量に占める割合が多くなっています。
多くの人が認める落ちついた色彩の屋根景観は、私たちが見慣れた安んずる感のある配色の基本といえます。